

記入要領

- ・当該事業によるアウトカム指標の変化を把握
- ・道路種別により、評価項目は適宜変更
- ・効果が認められる評価項目は□を■に変更
- ・●印の評価項目については定量的評価の結果を記載

様式1 客観的評価指標による事業採択の前提条件、事業の効果や必要性の確認の状況

事業名	一般国道357号 東京湾岸道路（神奈川県区間）
事業主体	関東地方整備局

●事業採択の前提条件を確認するための指標

		指 標	指標チェックの根拠
前提条件	事業の効率性	■ 便益が費用を上回っている	費用便益比 (B/C) = 2.2 (経済的純現在価値 (B-C) = 2,642億円、経済的内部収益率 (EIRR) = 3.5%) 費用便益比 (B/C) = 2.2※1 (経済的純現在価値 (B-C) = 1,856億円、経済的内部収益率 (EIRR) = 4.7%) (※1) 既供用区間を除く区間を対象とした費用便益分析を行った場合。

●事業の効果や必要性を評価するための指標

政策目標		指 標 (対象となる指標のみ記載。効果が確認されるものは□を■に変更)	指標チェックの根拠
1. 活力	円滑なモビリティの確保	● 現道等の年間渋滞損失時間及び削減率	区間a(費用便益分析対象区間)について 渋滞損失時間(現況): 159,168千人・時間/年 渋滞損失削減時間: 45,254千人・時間/年 (257,844千人・時間/年⇒212,590千人・時間/年) 区間b(当該区間/平行区間)について: (国道1号、15号、16号、133号、357号、産業道路: 川崎市川崎区~横浜市金沢区) 並行区間等(当該区間)の渋滞損失時間: 10,190千人・時間/年 (川崎市川崎区~横浜市金沢区) 並行区間等(当該区間)の渋滞損失削減率: 約4割削減
		■ 現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される	対象区間(国道16号: 横浜市中区~横浜南区)、改善見込み(旅行速度19.6km/h⇒23.0km/h) 対象区間(国道15号: 川崎市川崎区)、改善見込み(旅行速度19.5km/h⇒20.3km/h)
		□ 現道又は並行区間等における踏切交通遮断量が10,000台時/日以上踏切道の除却もしくは交通改善が期待される	
		□ 現道等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する	
		□ 新幹線駅もしくは特急停車駅へのアクセス向上が見込まれる	
		■ 第一種空港、第二種空港、第三種空港もしくは共用飛行場へのアクセス向上が見込まれる	羽田空港~本牧ふ頭 (78分⇒20分)
	物流効率化の支援	■ 重要港湾もしくは特定重要港湾へのアクセス向上が見込まれる	横浜港~首都圏 (94分⇒36分)
	□ 農林水産業を主体とする地域において農林水産品の流通の利便性が向上		
	□ 現道等における、総重量25tの車両もしくはISO規格背高海上コンテナ輸送車が通行できない区間を解消する		
1. 活力	都市の再生	■ 都市再生プロジェクトを支援する事業である	京浜臨海都市再生事業

		<input type="checkbox"/> 広域道路整備基本計画に位置づけのある環状道路を形成する	
		<input type="checkbox"/> 市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり	
		<input type="checkbox"/> 中心市街地内で行う事業である	
		<input type="checkbox"/> 幹線都市計画道路網密度が1.5km/km2以下である市街地内での事業である	
		<input checked="" type="checkbox"/> DID区域内の都市計画道路整備であり、市街地の都市計画道路網密度が向上する	都市計画道路網密度の変化 (2.43km/km2⇒2.47km/km2)
		<input type="checkbox"/> 対象区間が現在連絡道路がない住宅地開発(300戸以上又は16ha以上、大都市においては100戸以上又は5ha以上)への連絡道路となる	
国土・地域ネットワークの構築		<input type="checkbox"/> 高速自動車国道と並行する自専道(A'路線)としての位置づけ有り	
		<input type="checkbox"/> 地域高規格道路の位置づけあり	
		<input type="checkbox"/> 当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する	
		<input type="checkbox"/> 当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する	
		<input type="checkbox"/> 現道等における交通不能区間を解消する	
		<input type="checkbox"/> 現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消する	
		<input checked="" type="checkbox"/> 日常活動圏の中心都市へのアクセス向上が見込まれる	横浜市～千葉市(244分⇒96分)、横浜市～東京都(106分⇒88分)
個性ある地域の形成		<input type="checkbox"/> 鉄道や河川等により一体的発展が阻害されている地区を解消する	
		<input checked="" type="checkbox"/> 拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模イベントを支援する	京浜臨海都市再生事業
		<input checked="" type="checkbox"/> 主要な観光地へのアクセス向上が期待される	首都圏～八景島シーパラダイス(131分⇒52分)、横浜市～ディズニーランド(157分⇒54分)
		<input type="checkbox"/> 特別立法に基づく事業である	
		<input type="checkbox"/> 新規整備の公共公益施設へ直結する道路である	
		<input type="checkbox"/> 歴史的景観を活かした道路整備や中心商店街のシンボリックな道路整備等、特色あるまちづくりに資する事業である	
2.暮らし	歩行者・自転車のための生活空間の形成	<input type="checkbox"/> 自転車交通量が500台/日以上、自動車交通量が1,000台/12h以上、歩行者交通量が500人/日以上に該当する区間において、自転車利用空間を整備することにより、当該区間の歩行者・自転車の通行の快適・安全性の向上が期待できる	
		<input type="checkbox"/> 交通バリアフリー法における道路特定事業に位置付けがある、または、交通バリアフリー法に基づく重点整備地区における特定経路を形成する区間が新たにバリアフリー化される	
無電柱化による美しい町並みの形成		<input type="checkbox"/> 対象区間が電線類地中化5ヶ年計画に位置づけ有り	
		<input type="checkbox"/> 市街地又は歴史景観地区(歴史的風土特別保存区域及び重要伝統的建造物保存地区)の幹線道路において新たに無電柱化を達成する	
安全で安心できるくらしの確保		<input type="checkbox"/> 三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる	

3. 安全	安全な生活環境の確保	<input checked="" type="checkbox"/> 現道等に死傷事故率が500件/億台キロ以上である区間が存在する場合において、交通量の減少、歩道の設置又は線形不良区間の解消等により、当該区間の安全性の向上が期待できる <input type="checkbox"/> 当該区間の自動車交通量が1,000台/12h以上（当該区間が通学路である場合は500台/12h以上）かつ歩行者交通量100人/日以上（当該区間が通学路である場合は学童、園児が40人/日以上）の場合、又は歩行者交通量500人/日以上の場合において、歩道が無い又は狭小な区間に歩道が設置される	国道16号横浜市中区尾上町：660件/億台キロ、交通量の減少が見込まれる		
		災害への備え	<input type="checkbox"/> 近隣市へのルートが1つしかなく、災害による1～2箇所の道路寸断で孤立化する集落を解消する <input checked="" type="checkbox"/> 対象区間が、都道府県地域防災計画、緊急輸送道路ネットワーク計画又は地震対策緊急整備事業計画に位置づけがある、又は地震防災緊急事業五ヶ年計画に位置づけのある路線（以下「緊急輸送道路」という）として位置づけあり <input type="checkbox"/> 緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する <input type="checkbox"/> 並行する高速ネットワークの代替路線として機能する（A'路線としての位置づけがある場合） <input type="checkbox"/> 現道等の防災点検又は震災点検要対策箇所もしくは架替の必要のある老朽橋梁における通行規制等が解消される <input type="checkbox"/> 現道等の事前通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬期交通障害区間を解消する <input type="checkbox"/> 避難路へ1km以内で到達できる地区が新たに増加する <input type="checkbox"/> 幅員6m以上の道路がないため消火活動が出来ない地区が解消する <input type="checkbox"/> 密集市街地における事業で火災時の延焼遮断帯の役割を果たす	神奈川県緊急輸送道路ネットワーク計画（緊急輸送路一次指定路線）	
	4. 環境	地球環境の保全	<input checked="" type="checkbox"/> 対象道路の整備により削減される自動車からのCO2排出量	CO2排出削減量：27千t/年	
		生活環境の改善・保全	<input checked="" type="checkbox"/> 現道等における自動車からのNO2排出削減率	（推計結果） 評価対象区間（現道／平行区間等）：（費用便益分析対象路線） 排出削減量：143t/年、排出削減率：24%削減	
			<input checked="" type="checkbox"/> 現道等における自動車からのSPM排出削減率	（推計結果） 評価対象区間（現道／平行区間等）：（費用便益分析対象路線） 排出削減量：14t/年、排出削減率：24%削減	
			<input type="checkbox"/> 現道等で騒音レベルが夜間要請限度を超過している区間について、新たに要請限度を下回ることが期待される区間がある		
			<input type="checkbox"/> その他、環境や景観上の効果が期待される		
		5. その他	他のプロジェクトとの関係	<input type="checkbox"/> 道路の整備に関するプログラム又は都市計画道路整備プログラムに位置づけられている	
				<input type="checkbox"/> 関連する大規模道路事業と一体的に整備する必要あり	
				<input type="checkbox"/> 他機関との連携プログラムに位置づけられている	
<input type="checkbox"/> その他、対象地域や事業に固有の事情等、以上の項目に属さない効果が見込まれる					

## 費用便益分析の結果

路線名	事業名	延長	事業種別	現拡・BPの別
一般国道357号	東京湾岸道路 (神奈川県区間)	L=18.4km	二次改築	BP

計画交通量 (台/日)	車線数	事業主体
31200~61800	4~6	関東地方整備局

## ① 費用

	改築費	維持修繕費	合計
基準年	平成19年度		
単純合計	1,692億円	189億円	1,881億円
うち残事業分	762億円	189億円	951億円
基準年における 現在価値 (C)	2,171億円	56億円	2,227億円
うち残事業分	532億円	56億円	588億円

## ② 便益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合計
基準年	平成19年度			
供用年	平成33年度			
単年便益 (初年便益)	340億円	61億円	22億円	424億円
基準年における 現在価値 (B)	3,912億円	699億円	258億円	4,869億円
うち残事業分	3,912億円	699億円	258億円	4,869億円

③ 結果

費用便益比（事業全体）	2.2
費用便益比（残事業）	8.3

注）費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

④ 感度分析（事業全体）

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比（B／C）
交通量	31200～61800台	±10%	2.0～2.4
事業費	1,692億円	±10%	2.0～2.4
事業期間	44年	±20%	1.5～3.0
割引率	4%	±1%	1.5～3.1

④ 感度分析（残事業）

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比（B／C）
交通量	31200～61800台	±10%	7.4～9.1
事業費	762億円	±10%	7.6～9.1
事業期間	13年	±20%	7.4～8.8
割引率	4%	±1%	7.0～9.9

## 交通状況の変化

事業名：一般国道357号 東京湾岸道路（神奈川県区間）（事業全体・残事業）

（推計時点 H42年）

			整備なし(A)	整備あり(B)	
①新設・改築道路 [バイパス等] : 18.4km	交通量	[台/日]	0	40,100	
	走行時間	[分]	0	34	
	走行時間費用	[億円/年]	0	376.20	
②主な周 辺道路	現道(国 道15号) : 11.2km	交通量	[台/日]	43,300	42,000
		走行時間	[分]	20	20
		走行時間費用	[億円/年]	226.10	217.83
	現道(国 道16号) : 20.8km	交通量	[台/日]	39,500	29,700
		走行時間	[分]	51	46
		走行時間費用	[億円/年]	539.42	369.42
	高速神奈 川1号横 羽線 : 12.7km	交通量	[台/日]	49,700	36,500
		走行時間	[分]	22	21
		走行時間費用	[億円/年]	292.83	209.52
	横浜横須 賀道路 : 24.7km	交通量	[台/日]	77,700	66,400
		走行時間	[分]	31	28
		走行時間費用	[億円/年]	599.64	451.83
	主) 横浜 鎌倉線 : 7.9km	交通量	[台/日]	37,600	35,400
		走行時間	[分]	21	20
		走行時間費用	[億円/年]	201.02	182.88
	首都高速 湾岸線 : 30.6km	交通量	[台/日]	51,300	38,900
		走行時間	[分]	30	27
		走行時間費用	[億円/年]	444.45	291.74
③その他道路合計 : 1592.3km	走行時間費用	[億円/年]	23045.13	22911.64	

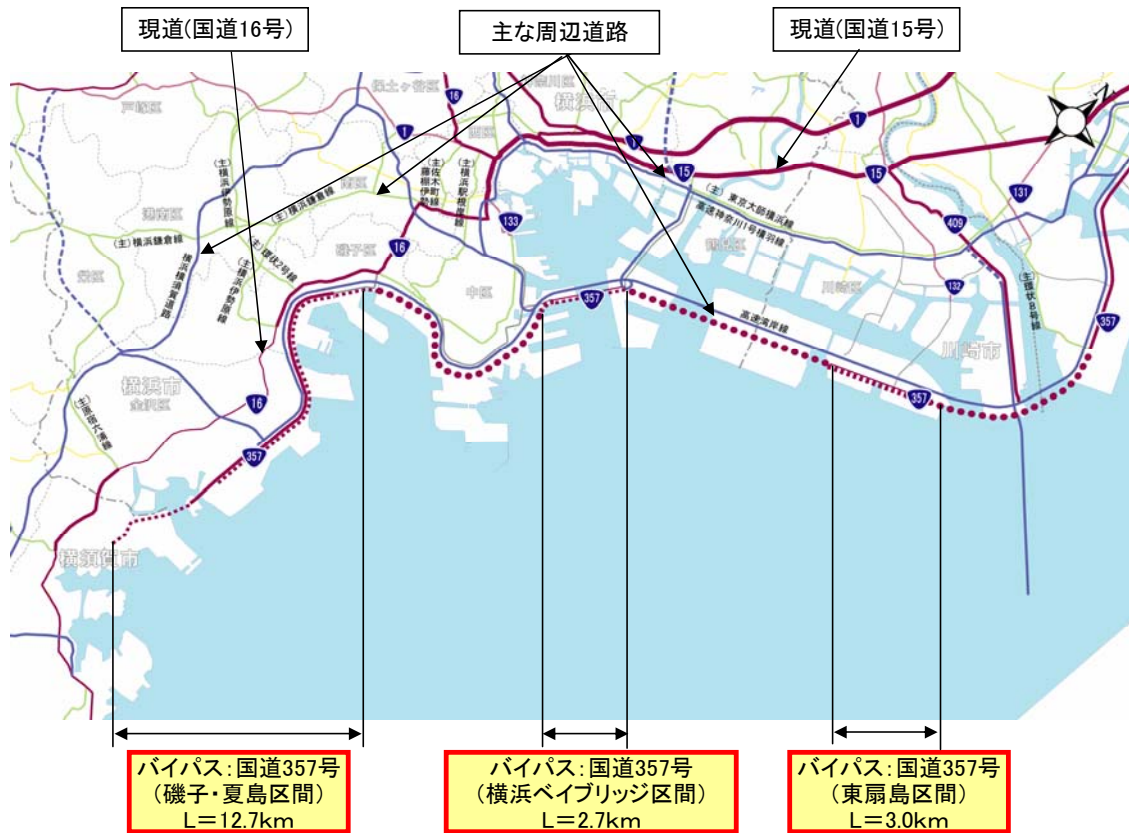
			走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計 : 1718.6km	走行時間短縮便益	[億円/年]	25348.59	25011.06	337.53

※ 四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある。

- ※1：交通量については、当該道路内の平均値または代表的な値を記載する。
- ※2：走行時間については、配分計算結果を用いる場合と当該道路の代表的な速度から算出する場合がある。
- ※3：走行時間費用については、費用便益分析マニュアルに従い車種別、区間別に算出したものの合計値である。
- ※4：主な周辺道路については、当該事業により大きな変化が生じる道路について3～5路線程度以内で記載する。

事業名：一般国道357号 東京湾岸道路（神奈川県区間）（事業全体・残事業）

【 図面（①、②に該当する道路を明示すること）】



## 費用便益分析の条件

事業名：一般国道357号 東京湾岸道路(神奈川県区間)

(2)

項目		チェック欄	
算出マニュアル	費用便益分析マニュアル (平成15年8月 国土交通省 道路局 都市・地域整備局)	<input checked="" type="checkbox"/>	
	その他	<input type="checkbox"/>	
分析の基本的事項	分析対象期間	40年間	
	社会的割引率	4%	
	基準年次	平成19年	
交通流の推計時点	1時点のみ推計	<input checked="" type="checkbox"/> (平成42年)	
	複数時点での推計	<input type="checkbox"/>	
推計の状況	整備の有無それぞれで交通流を推計	<input checked="" type="checkbox"/>	
	整備の有無のいずれかのみ推計	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
推計に用いたOD表	道路交通センサスをベースとした自動車OD表 (三段階推定法)	<input checked="" type="checkbox"/> (H11センサス)	
	パーソントリップ調査をベースとした自動車OD表 (四段階推定法)	<input type="checkbox"/>	
	その他( )	<input type="checkbox"/>	
開発交通量の考慮	無	<input checked="" type="checkbox"/>	
	有	<input type="checkbox"/>	
	有の場合のみ	考慮した開発交通量(トリップ数) ( )台トリップ/日 考慮した理由を記載	
配分交通量の推計手法	Q-V式を用いた配分	<input type="checkbox"/>	
	転換率式を用いた配分	<input type="checkbox"/>	
	Q-V式と転換率式の併用による配分	<input checked="" type="checkbox"/>	
	均衡配分(リンクパフォーマンス関数を用いた配分)	<input type="checkbox"/>	
	簡易手法	<input type="checkbox"/>	
	簡易手法の場合	小規模事業である	<input type="checkbox"/>
		山間部海岸部で併行道路が少ない	<input type="checkbox"/>
その他( )	<input type="checkbox"/>		
速度設定の考え方	各回の配分終了時の速度を交通量でウェイト付けして設定 採用理由を記載 交通量が、交通容量(Qmax~Qmin)以上の路線、交通容量(Qmin~Qmax)の路線、等が混在した配分結果となっているため、費用便益算出においては、速度差の生ずる「加重平均速度」を用いた。	<input checked="" type="checkbox"/>	
	最終配分の速度 採用理由を記載	<input type="checkbox"/>	
	その他( )	<input type="checkbox"/>	





費用の現在価値算定表(事業全体)

維持修繕費の単純単価の算出(消費税相当額含む)

箇所名: 東京湾岸道路(神奈川県区間)

採用単価の根拠 一般国道(直轄)		
単価(億円)	延長(km)	単純単価(億円)
0.27	18.4	4.97

年次	年度	割引率	事業費(億円)		維持修繕費(億円)	
			単純単価	現在価値	単純単価	現在価値
-44年目	S 52	3.2434	0.20	0.65		
-43年目	S 53	3.1187	0.70	2.18		
-42年目	S 54	2.9987	6.10	18.29		
-41年目	S 55	2.8834	3.70	10.67		
-40年目	S 56	2.7725	11.60	32.16		
-39年目	S 57	2.6658	12.10	32.26		
-38年目	S 58	2.5633	15.10	38.71		
-37年目	S 59	2.4647	24.40	60.14		
-36年目	S 60	2.3699	45.20	107.12		
-35年目	S 61	2.2788	45.00	102.55		
-34年目	S 62	2.1911	63.00	138.04		
-33年目	S 63	2.1068	53.90	113.56		
-32年目	H 1	2.0258	81.82	165.75		
-31年目	H 2	1.9479	25.71	50.08		
-30年目	H 3	1.8730	34.88	65.33		
-29年目	H 4	1.8009	50.75	91.40		
-28年目	H 5	1.7317	37.13	64.30		
-27年目	H 6	1.6651	33.60	55.95		
-26年目	H 7	1.6010	32.84	52.58		
-25年目	H 8	1.5395	15.83	24.37		
-24年目	H 9	1.4802	17.05	25.24		
-23年目	H 10	1.4233	70.00	99.63		
-22年目	H 11	1.3686	26.57	36.36		
-21年目	H 12	1.3159	48.10	63.29		
-20年目	H 13	1.2653	51.05	64.59		
-19年目	H 14	1.2167	74.14	90.21		
-18年目	H 15	1.1699	33.33	38.99		
-17年目	H 16	1.1249	3.52	3.96		
-16年目	H 17	1.0816	0.86	0.93		
-15年目	H 18	1.0400	7.05	7.33		
-14年目	H 19	1.0000	4.48	4.48		
-13年目	H 20	0.9615	5.00	4.81		
-12年目	H 21	0.9246	5.00	4.62		
-11年目	H 22	0.8890	19.52	17.35		
-10年目	H 23	0.8548	19.52	16.69		
-9年目	H 24	0.8219	38.57	31.70		
-8年目	H 25	0.7903	76.85	60.73		
-7年目	H 26	0.7599	76.19	57.90		
-6年目	H 27	0.7307	76.19	55.67		
-5年目	H 28	0.7026	76.19	53.53		
-4年目	H 29	0.6756	95.24	64.34		
-3年目	H 30	0.6496	95.24	61.87		
-2年目	H 31	0.6246	95.24	59.49		
-1年目	H 32	0.6006	83.24	49.99		
供用開始年次	H 33	0.5775			4.73	2.73
1年目	H 34	0.5553			4.73	2.63
2年目	H 35	0.5339			4.73	2.53
3年目	H 36	0.5134			4.73	2.43
4年目	H 37	0.4936			4.73	2.33
5年目	H 38	0.4746			4.73	2.24
6年目	H 39	0.4564			4.73	2.16
7年目	H 40	0.4388			4.73	2.08
8年目	H 41	0.4220			4.73	2.00
9年目	H 42	0.4057			4.73	1.92
10年目	H 43	0.3901			4.73	1.85
11年目	H 44	0.3751			4.73	1.77
12年目	H 45	0.3607			4.73	1.71
13年目	H 46	0.3468			4.73	1.64
14年目	H 47	0.3335			4.73	1.58
15年目	H 48	0.3207			4.73	1.52
16年目	H 49	0.3083			4.73	1.46
17年目	H 50	0.2965			4.73	1.40
18年目	H 51	0.2851			4.73	1.35
19年目	H 52	0.2741			4.73	1.30
20年目	H 53	0.2636			4.73	1.25
21年目	H 54	0.2534			4.73	1.20
22年目	H 55	0.2437			4.73	1.15
23年目	H 56	0.2343			4.73	1.11
24年目	H 57	0.2253			4.73	1.07
25年目	H 58	0.2166			4.73	1.02
26年目	H 59	0.2083			4.73	0.99
27年目	H 60	0.2003			4.73	0.95
28年目	H 61	0.1926			4.73	0.91
29年目	H 62	0.1852			4.73	0.88
30年目	H 63	0.1780			4.73	0.84
31年目	H 64	0.1712			4.73	0.81
32年目	H 65	0.1646			4.73	0.78
33年目	H 66	0.1583			4.73	0.75
34年目	H 67	0.1522			4.73	0.72
35年目	H 68	0.1463			4.73	0.69
36年目	H 69	0.1407			4.73	0.67
37年目	H 70	0.1353			4.73	0.64
38年目	H 71	0.1301			4.73	0.62
39年目	H 72	0.1251	-230.98	-28.90	4.73	0.59
合計			1460.72	2170.89	189.20	56.27
単純事業費計			1692		189	

注1)事業費の投資パターンは、費用便益分析の計算条件として設定した標準的な投資パターンであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。  
このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。  
(投資パターンの変化による費用便益分析結果への影響等については、再評価及び事後評価として評価を実施。)

注2)評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

注3)維持修繕費は便益算出マニュアルの参考値を基本としている。

※既供用区間を除く区間を対象とした費用便益分析を行った場合  
費用の現在価値算定表(事業全体)

様式-4

維持修繕費の単価単価の算出(消費税相当額含む)

箇所名:東京湾岸道路(神奈川県区間)

採用単価の根拠 一般国道(直轄)		
単価(億円)	延長(km)	単価(億円)
0.27	4.0	4.97

年次	年度	割引率	事業費(億円)		維持修繕費(億円)	
			単価単価	現在価値	単価単価	現在価値
-44年目	S 52	3.2434	0.00	0.00		
-43年目	S 53	3.1187	0.10	0.31		
-42年目	S 54	2.9987	1.30	3.90		
-41年目	S 55	2.8834	0.70	2.02		
-40年目	S 56	2.7725	3.00	8.32		
-39年目	S 57	2.6658	5.80	15.46		
-38年目	S 58	2.5633	5.40	13.84		
-37年目	S 59	2.4647	8.00	19.72		
-36年目	S 60	2.3699	23.00	54.51		
-35年目	S 61	2.2788	23.20	52.87		
-34年目	S 62	2.1911	39.90	87.42		
-33年目	S 63	2.1068	33.20	69.95		
-32年目	H 1	2.0258	48.10	97.44		
-31年目	H 2	1.9479	17.13	33.37		
-30年目	H 3	1.8730	24.44	45.78		
-29年目	H 4	1.8009	33.93	61.10		
-28年目	H 5	1.7317	23.09	39.98		
-27年目	H 6	1.6651	24.17	40.25		
-26年目	H 7	1.6010	17.27	27.65		
-25年目	H 8	1.5395	6.50	10.01		
-24年目	H 9	1.4802	9.05	13.40		
-23年目	H 10	1.4233	41.90	59.64		
-22年目	H 11	1.3686	13.43	18.38		
-21年目	H 12	1.3159	30.19	39.73		
-20年目	H 13	1.2653	31.62	40.01		
-19年目	H 14	1.2167	51.75	62.96		
-18年目	H 15	1.1699	23.62	27.63		
-17年目	H 16	1.1249	2.48	2.79		
-16年目	H 17	1.0816	0.57	0.62		
-15年目	H 18	1.0400	5.05	5.25		
-14年目	H 19	1.0000	2.86	2.86		
-13年目	H 20	0.9615	5.00	4.81		
-12年目	H 21	0.9246	5.00	4.62		
-11年目	H 22	0.8890	19.52	17.35		
-10年目	H 23	0.8548	19.52	16.69		
-9年目	H 24	0.8219	38.57	31.70		
-8年目	H 25	0.7903	76.85	60.73		
-7年目	H 26	0.7599	76.19	57.90		
-6年目	H 27	0.7307	76.19	55.67		
-5年目	H 28	0.7026	76.19	53.53		
-4年目	H 29	0.6756	95.24	64.34		
-3年目	H 30	0.6496	95.24	61.87		
-2年目	H 31	0.6246	95.24	59.49		
-1年目	H 32	0.6006	83.24	49.99		
供用開始年次	H 33	0.5775			4.73	2.73
1年目	H 34	0.5553			4.73	2.63
2年目	H 35	0.5339			4.73	2.53
3年目	H 36	0.5134			4.73	2.43
4年目	H 37	0.4936			4.73	2.33
5年目	H 38	0.4746			4.73	2.24
6年目	H 39	0.4564			4.73	2.16
7年目	H 40	0.4388			4.73	2.08
8年目	H 41	0.4220			4.73	2.00
9年目	H 42	0.4057			4.73	1.92
10年目	H 43	0.3901			4.73	1.85
11年目	H 44	0.3751			4.73	1.77
12年目	H 45	0.3607			4.73	1.71
13年目	H 46	0.3468			4.73	1.64
14年目	H 47	0.3335			4.73	1.58
15年目	H 48	0.3207			4.73	1.52
16年目	H 49	0.3083			4.73	1.46
17年目	H 50	0.2965			4.73	1.40
18年目	H 51	0.2851			4.73	1.35
19年目	H 52	0.2741			4.73	1.30
20年目	H 53	0.2636			4.73	1.25
21年目	H 54	0.2534			4.73	1.20
22年目	H 55	0.2437			4.73	1.15
23年目	H 56	0.2343			4.73	1.11
24年目	H 57	0.2253			4.73	1.07
25年目	H 58	0.2166			4.73	1.02
26年目	H 59	0.2083			4.73	0.99
27年目	H 60	0.2003			4.73	0.95
28年目	H 61	0.1926			4.73	0.91
29年目	H 62	0.1852			4.73	0.88
30年目	H 63	0.1780			4.73	0.84
31年目	H 64	0.1712			4.73	0.81
32年目	H 65	0.1646			4.73	0.78
33年目	H 66	0.1583			4.73	0.75
34年目	H 67	0.1522			4.73	0.72
35年目	H 68	0.1463			4.73	0.69
36年目	H 69	0.1407			4.73	0.67
37年目	H 70	0.1353			4.73	0.64
38年目	H 71	0.1301			4.73	0.62
39年目	H 72	0.1251	-125.88	-15.75	4.73	0.59
合計			1186.86	1480.11	189.20	56.27
単純事業費計			1313		189	

注1)事業費の投資パターンは、費用便益分析の計算条件として設定した標準的な投資パターンであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。  
このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。  
(投資パターンの変化による費用便益分析結果への影響等については、再評価及び事後評価として評価を実施。)

注2)評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

注3)維持修繕費は便益算出マニュアルの参考値を基本としている。

費用の現在価値算定表(残事業)

維持修繕費の単純単価の算出(消費税相当額含む)

箇所名: 東京湾岸道路(神奈川県区間)

採用単価の根拠 一般国道(直轄)		
単価(億円)	延長(km)	単純単価(億円)
0.27	18.4	4.97

年次	年度	割引率	事業費(億円)		維持修繕費(億円)	
			単純単価	現在価値	単純単価	現在価値
-44年目	S 52	3.2434				
-43年目	S 53	3.1187				
-42年目	S 54	2.9987				
-41年目	S 55	2.8834				
-40年目	S 56	2.7725				
-39年目	S 57	2.6658				
-38年目	S 58	2.5633				
-37年目	S 59	2.4647				
-36年目	S 60	2.3699				
-35年目	S 61	2.2788				
-34年目	S 62	2.1911				
-33年目	S 63	2.1068				
-32年目	H 1	2.0258				
-31年目	H 2	1.9479				
-30年目	H 3	1.8730				
-29年目	H 4	1.8009				
-28年目	H 5	1.7317				
-27年目	H 6	1.6651				
-26年目	H 7	1.6010				
-25年目	H 8	1.5395				
-24年目	H 9	1.4802				
-23年目	H 10	1.4233				
-22年目	H 11	1.3686				
-21年目	H 12	1.3159				
-20年目	H 13	1.2653				
-19年目	H 14	1.2167				
-18年目	H 15	1.1699				
-17年目	H 16	1.1249				
-16年目	H 17	1.0816				
-15年目	H 18	1.0400				
-14年目	H 19	1.0000				
-13年目	H 20	0.9615	5.00	4.81		
-12年目	H 21	0.9246	5.00	4.62		
-11年目	H 22	0.8890	19.52	17.35		
-10年目	H 23	0.8548	19.52	16.69		
-9年目	H 24	0.8219	38.57	31.70		
-8年目	H 25	0.7903	76.85	60.73		
-7年目	H 26	0.7599	76.19	57.90		
-6年目	H 27	0.7307	76.19	55.67		
-5年目	H 28	0.7026	76.19	53.53		
-4年目	H 29	0.6756	95.24	64.34		
-3年目	H 30	0.6496	95.24	61.87		
-2年目	H 31	0.6246	95.24	59.49		
-1年目	H 32	0.6006	83.24	49.99		
供用開始年次	H 33	0.5775			4.73	2.73
1年目	H 34	0.5553			4.73	2.63
2年目	H 35	0.5339			4.73	2.53
3年目	H 36	0.5134			4.73	2.43
4年目	H 37	0.4936			4.73	2.33
5年目	H 38	0.4746			4.73	2.24
6年目	H 39	0.4564			4.73	2.16
7年目	H 40	0.4388			4.73	2.08
8年目	H 41	0.4220			4.73	2.00
9年目	H 42	0.4057			4.73	1.92
10年目	H 43	0.3901			4.73	1.85
11年目	H 44	0.3751			4.73	1.77
12年目	H 45	0.3607			4.73	1.71
13年目	H 46	0.3468			4.73	1.64
14年目	H 47	0.3335			4.73	1.58
15年目	H 48	0.3207			4.73	1.52
16年目	H 49	0.3083			4.73	1.46
17年目	H 50	0.2965			4.73	1.40
18年目	H 51	0.2851			4.73	1.35
19年目	H 52	0.2741			4.73	1.30
20年目	H 53	0.2636			4.73	1.25
21年目	H 54	0.2534			4.73	1.20
22年目	H 55	0.2437			4.73	1.15
23年目	H 56	0.2343			4.73	1.11
24年目	H 57	0.2253			4.73	1.07
25年目	H 58	0.2166			4.73	1.02
26年目	H 59	0.2083			4.73	0.99
27年目	H 60	0.2003			4.73	0.95
28年目	H 61	0.1926			4.73	0.91
29年目	H 62	0.1852			4.73	0.88
30年目	H 63	0.1780			4.73	0.84
31年目	H 64	0.1712			4.73	0.81
32年目	H 65	0.1646			4.73	0.78
33年目	H 66	0.1583			4.73	0.75
34年目	H 67	0.1522			4.73	0.72
35年目	H 68	0.1463			4.73	0.69
36年目	H 69	0.1407			4.73	0.67
37年目	H 70	0.1353			4.73	0.64
38年目	H 71	0.1301			4.73	0.62
39年目	H 72	0.1251	-53.78	-6.73	4.73	0.59
合計			708.21	531.96	189.20	56.27
単純事業費計			762		189	

注1) 事業費の投資パターンは、費用便益分析の計算条件として設定した標準的な投資パターンであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。  
 このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。  
 (投資パターンの変化による費用便益分析結果への影響等については、再評価及び事後評価として評価を実施。)

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

注3) 維持修繕費は便益算出マニュアルの参考値を基本としている。



